

## [土岐川庄内川地域懇談会]



・オープンハウスで使用する資料等は、流域の住民がどこから水を得て、使った水がどこへ流れているのかわかるような、自分たちの生活と流域とのつながりが意識できるような工夫をして欲しいと思います。また、地域懇談会は、回数を重ねていくだけではなく少しでも毎回進化した会合になるようにお願いしたいと思います。



・「雨水貯留・雨水浸透機能の減少に考慮する」とありますが、プラス表現にあわせて「雨水浸透機能の確保」などという書き方がいいと思います。また、名古屋市にとって堤防道路は重要であると思いますが「川」本来のあるべき姿からかけ離れています。占用している家屋の移転とともに問題で、流域委員会としては、川の環境、治水の重要性を最優先で考えて、強い意見を出していくべきじゃないかと感じました。

## [土岐川庄内川行政連絡会議]



・課題に対する意見について、直接水害を受ける可能性がある市町だと「何々していただきたい」と言う要望が出てくるのはわかりますが、一方で、合流してくる支川に関わる市町が担うべき役割があると思います。流域は小流域で構成されているので支川流域ごとで議論を行うべきで、各流域に関わる市町の水のあり方について議論していくないと、単なる連絡会議だけでは具体的な議論にならないと思います。



・愛知県でも流域委員会がスタートしましたが、この庄内川で議論しているところの情報共有ができない気がします。お互いの情報を共有しながら進めていく必要があると思います。また、住民の意見に関しても、土岐川庄内川の情報収集のやり方と、県の情報収集のやり方（流域全戸にアンケート用紙を配布し意見聴取）は異なるため、各々実施したことに対し共有していく必要があると思いました。



庄内新川橋橋詰交差点の渋滞状況



東海豪雨で崩壊した法面状況

●堤防道路を通行する様々な車両や設置されるガードレールなどの道路付属物による負荷が、堤防の弱体化を招いています

## ○ 現状の課題のとりまとめについて

土岐川庄内川流域委員会の議論、流域住民及び流域自治体からの意見を踏まえた土岐川庄内川の現状と課題を「コレカラプロジェクトレポート Vol.1 ~土岐川庄内川の河川整備上の課題~」としてとりまとめることが確認され、今回の流域委員会の議論等を受け、委員長の最終確認を得て公表することが決定しました。



・「治水を考慮した堤防」の表現について、「考慮・配慮」という言葉は副次的なものに対する言葉であり、堤防はもともと治水の目的を持ったものであるため、治水機能を妨げない利用が大事であるという観点の表現にすべきです。



・「氾濫域の状況に合わせた」とありますが、もう少し正確に「雨水流出形態・特性及び氾濫域の状況に合わせた」としていただきたいと思います。雨水流出の形態や特性は全然違うので、氾濫域の状況だけでなく、もう少しその辺を考慮して正確に書いていただきたいと思います。また、片田委員の指摘にありました「沿川と一緒に防災システム」に、「情報の収集・伝達システムの整備」が抜けていたりだと思いますので、入れていただきたいと思います



・「河道貯留効果」とありますが、この効果とは、渓谷部の狭窄部の効果ということを意味しているのでしょうか。その狭窄部で制御されて上流部に湛水し、若干貯留効果があるという意味なら重要なと思いますが、そうでなければなぜ強調されているのでしょうか。

### 事務局



・河道貯留効果は、中流部について考えています。実際、その効果については、我々はまだ正確に把握し切れていませんので、今後検討していきたいと思っています。



・「都市河川にふさわしい河川の整備」について、困難性、緊急性や安全性というところで、危機感をあおるのも問題ですけれども、めり張りのある表現も必要だと思います。「一般的に言って都市河川の治水は難しく、特に庄内川は難しいんですよ。だから様々な手段を講じ、流域全体として取り組む必要があり、それを至急やらなければならない」という感じで書いていただければ、河川整備の必要性と困難性について、車座集会などに参加されないような一般市民の方が読んで感じられるのではないかと思いました。



・自分が流域の中のどんな位置を占めているのかという位置付けがわかっていないので、それが意識できるように「流域の自治体が一体となって」や「流域にある市民が一体となって」という表現に対し、「流域の一員」ということが認識できるような表現に改め、それをアピールするように文章を工夫していただきたいと思います。



内田委員